



日本共産党市議会議員 中野あきと・事務所ニュース

みどりと清流

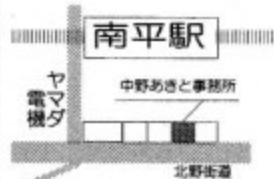
中野あきと事務所 第102号
〒191-0041 日野市南平7-6-72
TEL・FAX 042-599-3350 2010年
発行責任者 小林 進 9月発行

http://www.ab.cyberhome.ne.jp/~nakanohp/

しん 赤旗

日刊紙1ヶ月 2900円
日曜版1ヶ月 800円
お申し込み 党南多摩事務所
TEL 042-374-4384
または中野事務所へ

法律・生活相談など
お気軽にお立ち寄り下さい



ススキも伸びてきました

来年4月 保育園2ヶ所が開園

9月市議会に提案されている補正予算で、認可保育園を一園(定員86名・日野本町)、認証保育園一園(40名・栄町)を建設するための予算が盛り込まれました。いずれも来年4月の開所予定です。

日野市では、今年度4月段階で162名もの保育園待機児が生まれ、全国的にも待機児が多い自治体に数えられるなど深刻な事態となっていました。市民の強い要望や、6月議会での待機児解消を求める決議の可決などもあり、増設が補正予算に盛り込まれました。

しかし、これで126名の定員拡大が図られますが、待機児問題は解消されたわけではなく、来春には今年度以上の待機児が懸念されています。

平山の生コン工場問題

住民と市長との話し合いが実現

去る8月3日、生コン工場の環境破壊の解決を求める「平山6丁目の環境を守る会」が要求していた市長との話し合いがようやく実現しました。

「環境を守る会」は

◆以前から苦しんでいた生コン工場の環境破壊の早急な解決をお願いする。

◆一年という期間の中で厳しい対応をお願いしたい(業者側のこれ以上の引き延ばしは許せない)。

◆今回の話し合いの内容を、副市長以下担当職員にきちんと伝えていただきたい。
と、馬場市長に要請しました。

これに対し市長は

◇就任して13年になるが、この間にはかばかしい進展がなかったことは、市長として申し訳なかったと反省している。

◇今考えると初期の段階で市の権限で厳しく勧告を出すことが

できたと思うが、就任早々の時点で正直そこまでの行政知識を持ち合わせていなかったことについても、お詫びさせていたいただきたい。

◇平成2年に東京都へ業者が提出した是正計画書には期限が示されていない。しかし、今回出された是正計画書には3年間の期限が明記されていることは進展であるが、この期限を少しでも短縮させる努力をし、2年くらいの内には厳しい対応をとっていきたい。その間にも一つづつステップを踏んで進めていく。

◇今日お話しをさせていただいた内容については、既に関係職員に指示を出しており、厳しい対応を取っていかせる。などの発言がありました。

なお、9月8日の市議会本会議一般質問で、中野あきと議員は再度この問題をとりあげ、早期解決を図るよう市に求めました。

短信

異常な猛暑の中で待ち焦がれていた秋である。この季節「灯火親しむ」なりといわれてきたが、その風情も今は失われている。いまよきの夜、明るすぎはしないか。以前は必要な部分にだけ灯りがあつたような気がする。蛍光灯が世に出て半世紀余、エネルギー効率のよさが電球を駆逐し、夜の風景を一変させた▼「電灯」とは電球による灯りのことをいうが、もはや死語となつていく。電球は白熱球ともいい、エネルギーの大半が熱となつて費やされる。非効率であるが故に蛍光灯に主役をゆずつたが、あの灯りには暖かさがあつた。童謡「里の秋」の「栗の実煮てます開炉裏ばた」は、梁から下がる薄暗い電球の光に浮かぶ光景であろう▼今年に入つて電球製造の代表的な存在だった東芝が、製造ラインを閉鎖すると発表された。「電灯」という言葉とともにまた一つ、よき時代が終わろうとしている▼エゴがさし迫つた課題となつている。蛍光灯に下支えされた二十四時間社会の在り方を見直すべきだ。暗さの克服ではなく、暗さの価値を見出すべきではないだろうか。新光源のLEDは、上手に使っていきいものだ。(R)

新たな財源は暮らし・教育へ

9月1日から27日までの日程で第3回定例市議会（9月議会）が始まりました。

今議会には、次のような補正予算案が提出されています。

- ・認可保育園等二園の増設
- ・多摩平第一公園トイレバリアフリー化工事
- ・栄町複合施設整備
- ・市民会館トイレ改修
- ・多摩平保育園の建設工事
- ・旭が丘中央公園テニスコート整備経費

一方、法人市民税などの落ち込みの中で、地方交付税が新たに約13億円ほど財源として確保されたり、前年度の決算剰余金が確定し約24億円も新たに歳入に組み込まれたにもかかわらず、そのほとんど（合計37億円の財源の内35億円）を貯金（26億円）や借金対応（9億円）にあてる補正予算となつていきます。

介護や医療の重い負担、介護施設不足、増大する保育園待機時児、虐待問題・孤立化する子育て支援、小中学校の教室へのエアコン設置やトイレ改修、ミニバス路線の「合理化」による

市立病院へのアクセス悪化、小業者・商店街の振興策など、たくさんの方の切実な対応が迫られている課題が山積しています。しかし「次世代に負担を残さないために」と市長は、貯金や借金対応にばかり目をむけていくのが実態です。「切実な緊急な市民の願いに込めよ」「そのために貴重な財源を活用せよ」これを今議会の大きな焦点として、党市議団は論戦を行います。

ミニニュース

一番橋通りの立体交差は来年度中に工事完了

8月27日、一番橋通り立体交差工事の説明会が行われ、平成23年度中には工事が完了する、来年の2月または3月には車道、歩道とも立体交差に切り替えられ京王線の踏み切りは閉鎖されるという市の説明がありました。参加者からは、「歩道部分の安全確保」「七生中正門前横断歩道の信号機設置の必要性」「切り替えまで利用することになる既存踏み切りの幅による安全確保」「歩行者専用の踏み切りは残すべき」などの意見・要望が出されました。

ミニバス旭が丘循環、平山循環 市役所、市立病院への区間は残せ

ミニバス旭が丘循環は、今回の路線見直しにより80分に一本のダイヤが60分に改善されましたが、豊田駅北口から市立病院・市役所間の部分が他の路線との重複を理由に打ち切られることになり、この方面まで行く利用者は乗換えが必要となります。9月市議会に向けて、この区間の存続を求める請願が豊田団地自治会から提出され、共産、民主、自民、公明の議員が紹介議員となりました。

また、平山循環路線も同区間が打ち切られることになり、平山公社住宅の住民からも同様の請願が出されました。

《10年10月の無料法律相談》

市役所6階 共産党控室 午後1時~3時
10月14日（木）

※予約が必要ですので、お申し込み下さい。

本年度中には完了

市内の学校校舎・体育館の耐震化

一刻も早い実現が要望されていた市内の小中学校の校舎・体育館の耐震補強が、今年度中にほぼ完了することになりました。校舎・体育館などの改修計画は02年につくられました。この間「行革」の名による教育予算の大幅な削減や、大型施設である「市民の森ふれあいホール」の建設なども浮上し、計画が先送りされる状況が生じていました。

党市議団は「税金の使い方の優先順位を改めよ」と主張。あわせて学校の実態調査を独自に実施し、学校が耐震

不足だけでなく、雨漏りで天井に穴が開いている状況や非常階段が老朽化し使えなくなっているなど、深刻な実態であることを明らかにしてきました。

07年12月市議会でも市長は「学校がロボロだとか雨が漏るとか随分言われ、それで教育予算を膨らませた」「そういうことを言われていなければ、あるいは対応はなかったかも知れない」と述べました。

改修計画は目標年次から数年遅れましたが、「ふれあいホール」建設以前に完了させることになりました。

おまたせしました 第40回

日本共産党 赤旗まつり

●11月6日（土）7日（日）

●夢の島公園 午前9時開場

最寄駅：新木場駅

有楽町線、JR京葉線、JR埼京線、りんかい線

●一般券2300円（当日2500円）

割引券1500円・中・高・学生、70歳以上（当日1700円）

●地域でのバスも計画されています。ご希望

の方は、お問い合わせください。

